

人は実らず

2022. 7. 13

やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ

有名な言葉である。山本五十六の名言であり、人材育成に関わる話になると、よく出てくる。この一節は、世に知られたフレーズである。だが、この先があることは、意外と知られていないのではなかろうか。

話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず

なるほどと唸るしかない。人を動かすだけではなく、育てて、実らせる。まさしく、今の私に課せられた使命のようなものである。毎日がこの繰り返しである。問題は、どの程度できているのかという点である。

本校の先生方は、私が、やってみせなくても、言って聞かせなくても、させてみせなくても、動いてくれる。こういふと、何もしていないようだが、そういうわけではない。だが、不十分であることは間違いない。みんな動いてくれるため、ほめるチャンスはある。

次はどうだろうか。けっこう話し合っている、耳を傾けている、承認もしている、任せてもいる。だからといって、十分だとは考えてはいない。これは、先生方がよく話に来てくれるので、自然とそうになっているだけのことである。

やっている姿を感謝で見守る機会が多い。ほめることもあるが、「ありがとうございます」と感謝の言葉を口にすることが多い。これも、先生方が動いてくれるからできることである。その姿からは、信頼という文字が浮かぶ。

先生方の意識が高い。よく動く。何かあれば素早く対応している。常々、誠意は時間です、スピードですと言っているが、スピード感のある先生方の動きである。私はというと、話を聞き、信頼して任せて、滞っている点、足りない点を指摘して考えてもらう。いつも自分の出番はいつか、そのタイミングを見計らっている。あとは責任をとるだけである。

人を動かすためには、直接手をかける必要があるが、人を育てるとなると、それほど手をかけなくなる。そして、人を実らせる段階になると、見守るとなる。

人を動かすこと、人を育てることは、ずっと考えてきた。だが、人を実らせることはどうかという、足りなかったことを認めざるを得ない。経験豊富な先生方がそろっていることを考えれば、もっと人を実らせる視点が必要である。このことを山本五十六の名言から学んだ。